

1 横須賀再興プラン2026～2029（横須賀市実施計画）（案） ・ 令和8年度（2026年度）当初予算案の概要

市長

本日は、4年に一度策定する、市の政策の方向性と重点的な取り組みを示す計画である「再興プラン」とその計画を実施していく事業を含めた、「令和8年度予算案」について、ご説明します。資料の説明に入る前に、まずは、再興プランと新年度予算に込めた私の想いを述べさせていただきます。

私が公約で掲げたのは、「横須賀復活」と、「誰も一人にさせないまち」の実現です。再興プランは、この実現を確実なものにするために策定した、今後4年間の方向性や取り組みをまとめたものです。このプランには、「横須賀のプライドとアイデンティティ」を次の世代へ引き継ぐ、という想いを特に込めています。中でも「第二の開国」と位置付ける浦賀地区の再開発、三浦一族ゆかりの地という歴史資産と豊かな自然を生かした「大矢部みどりの公園」の整備は、この想いを具体化する象徴的なプロジェクトとして掲げています。横須賀は、この8年間で大きく変わったと思っています。街にぎわいが戻り、民間事業者による投資が増えました。人口動態についても、転出超過が全国最多となった2013年のマイナス1,587人から、2025年にはマイナス54人となり、1,533人の改善となりました。年代別にみると、特に14歳以下の子どもと、その親世代にあたる30歳から59歳以下のいわゆるファミリー層において、2013年のマイナス1,030人から、2025年には199人の転入超過に転じ、1,229人という大幅な改善となっています。これは、横須賀が、市内外から、評価されてきた証しだと思っています。政治、経済、国際秩序は、目まぐるしく変化し、変転の時代は、これからも更に加速していくものに思えます。ただ、いかなる状況となっても「誰も一人にさせないまち」のため、一人でも多くの市民の方に「横須賀に住んで良かった」と思ってもらえるように、絶えず市政を、前に進めていかなければなりません。プランに掲げる取り組みを実施することで、これまで以上に、人、物、投資を横須賀に呼び込み、福祉の充実を支える裾野を広げていきたいと考えています。再興プランと令和8年度予算案の編成は、これらの想いのもと行っており、これまでの成長、好循環を決して止めることなく、変化を力に、さらに前進させていきます。

それでは、まず、「横須賀再興プラン」についてご説明します。この新たなプランは、現行の再興プランに続く、第3期のプランで、これまでの取り組みの集大成と考えています。別途お配りした「再興プラン」の47ページをお開きください。現行の再興プランとの違いとしては、2点あります。1点目は「子育て・教育分野」を最重点施策の第1の柱にしたことです。5つの最重点施策は、全て重要なものと考えていますが、社会が著しく変化していくなか、将来を担う子どもたちに、生き抜く力を身に付けてもらいたい、そして、少子化が進むなか、子どもをもちたいと望む方が、安心してその希望を叶えられる環境を整えたい、そうした私の強い想いを込め、柱の1番目に据えました。2点目は「防災分野」を新たに位置付けたことです。能登半島地震以降、自然災害は、頻発、激甚化し、横須賀でも災害リスクが現実のものとして迫る中、強い危機感と緊張感をもっています。そうしたなかでも、市民の命をしっかりと守っていかなければならないと常に考えています。その思いから、「防災分野」に特化した柱を新たに設け、防災拠点の整備や、三浦半島4市1町の広域連携など、取り組みをさらに強化してまいります。95ページをお開きください。市政を進めていくうえでは、政策を強化するだけでなく健全な財政運営が必要不可欠です。常にそのことを意識することが重要だと考えています。今回のプランにおいても、徹底した内部管理経費の見直し、生成AIの活用やDXの推進、民官連携による投資の呼び込みなど、様々な課題に迅速かつ的確に対応できるよう「行財政改革方針」をプランの後半部分に位置付け、推進していきます。

次に令和8年度予算の概要についてご説明します。別途お配りした「予算の概要」の1ページをお開きください。一般会計の予算規模は、1,801億2千万円で、前年度比5.3億円増、2年連続で過

去最大となっています。歳入では、市税収入が、賃上げによる個人市民税の増などにより、前年度比 8.9 億円、1.4%増の、632.4 億円となっています。3 ページをお開きください。歳出では、人件費の増加がある一方、教育関連予算を 30 億円増額しています。財政調整基金残高は、令和 8 年度末で 97.4 億円を見込みます。財政状況は、人件費の増加や社会保障費の増加などにより厳しい状況に置かれていますが、今後の 4 年間、さらにその先も見据えて常に行財政改革を進め、柔軟かつ責任ある財政運営を行ってまいります。それでは、重点施策について、今回の予算で特に力を入れた「子育て・教育」、そして「防災」を中心にご説明します。

5 ページをお開きください。まず、子育て支援です。妊娠・出産から子育てまで、切れ目ない支援を充実させます。出産子育て応援祝い金の支給や 5 歳児健診の実施、公立保育園の再編整備を進めます。また、子どもの居場所づくりとして、小学生の夏休み期間中の一時預かりについて、来年度は受け入れ場所を 1 か所から 3 か所に増やすと共に、中学生以下の子どもたちには、市施設の無料開放を行います。9 ページをお開きください。来年度はさらに、全天候型の遊び場の整備を進めます。児童図書館を含む周辺の土地について、子どもの遊び場や新しい児童図書館などを備えた複合施設も視野に入れながら、一体的な活用を民官連携で検討してまいります。

次に、教育です。今回の予算では、「教育改革」に最も力を入れています。この改革で実現したいことは、次の 3 つです。第 1 に、子ども自身が自らの夢や目標に向かい、自分で考える力を身に付けることです。友達や保護者、地域の方々など、自分を支えてくれる人と語り合い、つながりながら、自分らしく前に進める力を育みます。第 2 に、「誰も一人にさせない」学校づくりです。困ったときにはお互いに助け合い、励まし合い、そして互いを尊重し合う。そのような日常を横須賀の学校の当たり前として根付かせます。第 3 に、安全・安心な教育環境の実現です。心や身体の安全を確保することはもとより、横須賀の子どもたち一人一人が、「ここにいてよかった」と感じ、安心して過ごせる環境づくりを進めます。こうした改革を推進するため、「教育DX」を強力に進めます。教員の経験や気づきを大切にしながら、データやAI など新しい力を取り入れ、学校機能の全体の力を高めていきます。その基盤になるものとして、教員が日々の業務で使う「校務支援システム」の機能を大幅に拡充します。来年度はシステムの更新時期に当たりますが、単なる更新とせず、子どもの成績や出欠、健康情報などを一元的に集約し、見える形で活用できる次世代型のシステムに切り替えます。生成AI も活用することで、データに基づく、よりきめ細かな指導や支援につなげていきます。これは、政令市以外では県内で初めての取り組みです。また、AI を活用した英語学習アプリを県内で初めて、全中学校に導入します。令和 6 年度に全中学校に導入した電子黒板は、来年度中に全市立学校へと導入を広げます。これにより、視覚的な学習効果を高めることはもとより、一度板書した内容を再利用できるなど、授業の準備や進行を効率化します。配慮が必要な子ども一人一人に寄り添う支援としては、サポートルームを設置し、「誰も一人にさせない学校づくり」を進めます。これは、障害のある児童生徒等が必要な時間だけ個別の指導を受ける「通級指導」と教室に入ることが難しい児童生徒の居場所を一体化する取り組みで、県内では初、全国的にも珍しい試みとなります。快適で安全な学校づくりも、着実に進めます。体育館への空調整備については、計画的に取り組み、令和 11 年度までに全ての市立学校で整備を完了させます。なお、給食費については、来年度は、小学校は実質無償化し、中学校は保護者負担が増えないよう対応します。11 ページをお開きください。部活動については、教員の代わりに指導できる外部人材を増やすと共に、地域のスポーツ団体や文化団体との交流を広げ、合同練習会などを通じて地域展開を進めてまいります。このほか、水泳授業においても民間との連携を進めるなど、教員が子どもと向き合う時間を確保するための環境整備を、徹底的に、最大限、行ってまいります。

少し飛びまして、34 ページをお開きください。次に、防災です。近年の災害から、私たちは重要な教訓を得ました。能登半島地震では、半島という地勢的な制約から、道路が寸断され、支援物資が思うように届かず、多くの方々が必要な支援を受けるまでに時間を要しました。三方を海に囲まれ、道路網にも限りがある横須賀においても、大規模災害が発生した場合、同様の事態が起こり得ます。だからこそ、横須賀の防災では、「空」と「海」からの支援を、いかに早く市内全体につなげるかが極めて重要になります。このため、市営公園墓地の噴水広場に、最大 4 機のヘリコプターが離着陸できる環境を整備します。災害発生時には、ここを空からの支援物資の受け入れ拠点とし、他都市から届けられる救援物資を速やかに受け取ります。受け取った物資は、エコミルに整備する防災備蓄基地の備蓄物資と併せ、市内の各避難所へ迅速に配送します。また、大矢部みどりの公園の整備後は、海路で到着した支援物資も併せて各避難所へとつなげてまいります。こうして、空と海の

双方から支援物資を受け入れ、避難所へ確実に届ける体制をあらかじめ整えることで、道路やライフラインが復旧するまでの厳しい期間を、市全体で乗り切ってまいります。35 ページをお開きください。現在、避難所の備蓄物資は、想定している避難者1日分にとどまっています。これを補完するため、エコミルの防災備蓄基地に新たに2日分を備え、あわせて3日分を確保することで災害対応力の底上げを図ります。こうした支援体制とあわせて、避難される方々が、少しでも安心して過ごせる環境を整えることも、極めて重要です。避難所となっている市立学校の体育館については、令和11年度までに、全ての施設で空調整備を完了させます。災害時でも確実に機能することを重視し、停電時であっても稼働できるよう、整備する空調には電気式とガス式を併設します。夏や冬といった厳しい環境下においても、避難されている方々の身体的・精神的な負担を、少しでも和らげられるようにしてまいります。また、同じく避難所となっている体育会館については、不入斗、南、西の各体育会館では、すでに空調整備が完了しています。未整備であった北体育会館についても、来年度、空調整備に着手します。これにより、市の施設を活用した全ての避難所において、空調の整った環境を確保し、災害時における生活環境の改善を図ってまいります。

恐れ入りますが、15 ページにお戻りください。その他の分野についても、政策をさらに充実させていきます。地域の支え合いや健康・福祉については、地域コミュニティの再興を土台に、市民一人一人の健康寿命を延ばす取り組みを進めます。ヘルスケアデータを活用した健康支援は、市が保有する医療や介護、健康診断結果など、部署ごとに分散したデータを連結させることで健康リスクのある方を把握し、保健師や管理栄養士などが改善に向けた支援を行う、全国的にも極めて先進的な取り組みです。データ分析は、これまで国民健康保険加入者約6万人を対象としていましたが、来年度からは後期高齢者医療制度の加入者約7万人も加え、市民の3人に1人にまで対象を広げます。より多くの方を対象として生活習慣病などの予防を図り、健康の維持・増進につなげてまいります。また、うわまち病院跡地への看護系大学の新設に向けた取り組みや、障害のある方の「親なき後」を見据えた支援体制の整備のほか、介護人材の確保に向けた支援を進めてまいります。

23 ページをお開きください。経済・産業・観光です。福祉の充実には財源が不可欠であり、地域経済との好循環をつくることが重要です。浦賀駅前周辺地区の活性化を始めとした様々な施策により横須賀の魅力や可能性を高め、民間投資の呼び込みにもつなげてまいります。また、新規ふ頭の早期利用に向けた取り組みを進めると共に、中小企業へのきめ細やかな支援により、地域経済を支えてまいります。

38 ページをお開きください。環境分野では、新たに環境政策担当部を設置し、再生可能エネルギーの活用や環境教育を一体的に推進します。

41 ページをお開きください。行政運営では、民官連携や生成AIのさらなる活用のほか、キャッシュレス化の推進、広域連携の強化に取り組みます。

以上、重点施策をご説明しました。令和8年度予算は、市民お一人お一人が、自分らしく生きることが出来る環境を整え、一人でも多くの方に「横須賀に住んで良かった」と心から思っただけよう、知恵と汗とを絞り、編成いたしました。是非、ご理解とご協力をいただければ幸いです。以上で説明を終わります。

## ■質疑応答

### 記者

3点質問させていただきます。まず1点目、総論としての話ですが、今回の「再興プラン」の「再興」という表現は、どの時点からの「再興」のイメージを市長は考えていらっしゃいますでしょうか。

### 市長

私が当選してからの再興です。私が当選してからここから先も含めての再興です。

### 記者

つまり市長が当選される前のときから、さらに横須賀を盛り上げていくという意味合いでしょうか。

### 市長

盛り上げていくというか、それまでは沈滞していたと思っているので、私のテーマとしては横須賀

の復活を第1に掲げています。その復活の過程の中での横須賀再興、具体的な政策としての横須賀再興ということです。

#### 記者

いつの時期から再興するなど具体的な時期がありますでしょうか。もし、時期的なイメージがあれば教えてください。

#### 市長

申し上げにくいのですが、それは私の当選以前と考えています。以前は元気だった横須賀もあったでしょうから、そこから私が来るまで、具体的に言うと語弊があるかもしれませんが。様々なことで賑わいを失い、人口減少も始まって様々なことで企業が撤退していった。その時代から比べて、私が出てきたときには、音楽、スポーツ、エンターテインメントや経済の再興、復活を訴えていました。ですから、私が当選して以来とご理解いただければと思います。

#### 記者

ありがとうございます。続いては、各論です。今回、教育を第1の柱に掲げています。ICTの活用が前面に出ていると感じました。その中でAIを使った英語学習アプリを全校に導入とのことでした。今までは例えばALTの先生とコミュニケーションを取りながら学んできた中で、あえてAIのアプリを導入することには、どのようなメリットがあるとお考えでしょうか。

#### 市長

これから、AIは必須の時代になってくるでしょう。今やAIがAIを使っていく時代になったというときに、乗り遅れるとなると大変なことになると思っています。いち早くそういう状況に子どもたちに馴染んでもらいたいという想いがあります。いずれ、プログラマーやエンジニアがいらなくなる時代も来ると思います。恐らくクリエイターしか残らないような時代がこれから先は想像できます。そこへ向けて、子供たちは、まず今の状況に馴染んでいかなければならないと考えています。次の時代に向けて、少しでも早くAIの環境に馴染んでもらうという意味合いが強いです。

#### 記者

最後に3点目です。同じく珍しい施策として、生徒の様々なデータを一元的に管理すると掲げていらっしゃると思います。昨今、ビッグデータは、様々な情報から多角的に分析できるというメリットがありますが、これが少しでも漏れてしまうとかなり大きなリスクになるという話もあります。今後、かなり市としてはAIもICTも積極的に推進する中で、ビッグデータ、今回だと生徒一人一人の学習履歴評価、データを一元的に管理するシステムの構築とありますが、そのセキュリティに対する考え、リスクに対する予防策というのは何か念入りにされているのでしょうか。

#### 横須賀市教育委員会事務局 学校教育部長

今回、校務支援システムを入れ替えます。国の方針で、次世代型校務支援システムの導入というのが示されていて、その中で、一つはオンプレミス、今まで自分たちで管理していたデータをクラウド化すること、もう一つはゼロトラストセキュリティです。これは今までは内部と外部で管理の度合い、安全性の度合いを変えていたのですが、内部からのアクセスについても、外部からのアクセスと同様の厳しさを管理するという方向性が示されています。今回の校務支援システムは、いわゆる国が示す次世代型校務支援システムに沿ったものを導入しようと考えています。より厳格な厳しいセキュリティ体制を取ることで次世代型校務支援システムに対応していく予定です。

#### 記者

予算の概要の35ページにある、避難者一人当たりの備蓄を1日分から3日分に増やすとのことですが、避難者は全市民ではなく、想定があると思います。数字など分かれば教えてください。

#### 横須賀市 市長室長

避難所への避難者数ということで、約5万人を想定しております。

**記者**

教育に関して、これまで主にハード面や、エンタメ・スポーツのところで経済を回していくと仰っていた中で、今回、教育、ソフト面を手厚くしていくとのことでした。その想いを改めて聞かせてください。

**市長**

時代の流れだと思っています。全てが重点施策なのですが、どこに傾斜配分するかは時代の流れだろうと思います。本来はソフトを充実させたいという想いが教育にもありましたが、年度を追って順番が追い付いたと思っています。まずはハードができ上がった後に、子どもたちに生き抜く力をつけてもらいたい。ハード、ツールがなければならぬので、今回ようやくそこに踏み込めるような時代になった、時期になったと思っています。

**記者**

去年、自動採点システムや、AIで学級だよりを作成できるシステムでなどを実際に実装してきたことを踏まえた上での今回の施策でしょうか。

**市長**

もちろんです。おっしゃるとおりです。ハードの部分の環境を整備して、ツールが利用できるものは全部利用して、できる限り無駄を省きながら、本質的なものの改革をしていきたい。いろいろな意味で先生方の環境を整備し、子どもたちの環境も整備して、いよいよ本番に入っていくということです。

**記者**

他の自治体と比べて、横須賀ならではの部分を強調するとすれば、今回どこが市長のお気に入りでしょうか。

**市長**

他の自治体のことは、あまり知らないのですが、どうでしょうか。

**横須賀市教育委員会事務局 学校教育部長**

全部おすすめですが、この中で申しあげますとICT関連で、先ほど質問にもありました、データの一元的な見える化です。こちらは、ダッシュボードと言われる機能を用いて健康状況、学習状況、いろいろな児童生徒の心の状況も分かるようになっていきます。心の健康観察ツールというものを導入予定なのですが、毎朝、学校に来て、子どもが心の健康状態を「晴れ」、「雨」、それから「曇り」と入力します。雨が3日や5日続くと教師がそれを見てプッシュ型の指導に入ります。状況を聞いて、不登校やいじめ、問題行動の事前防止につなげていきます。それから、先ほどもありました外国語のAI学習アプリは、いろいろな音声子どもが発声すると、AIが返してくれる形で音声言語の学習ができます。今、本市では令和7年4月から一人一台端末の家庭への持ち帰りを始めております。その家に持ち帰った端末で、AIとのやりとりができるようになりますので、期限のない英語学習ができます。それ以外にもアピールしたいことがありますが、時間の関係もございまして、ICT関係だけお話しいたしました。

**記者**

子育ての分野を拝見すると、働きながら子育てがしやすい環境を、というようにところを感じたのですが、そのあたり、市長はどういったことに拘られて編成されたのでしょうか。

**市長**

私も、妻と一緒にずっと働いてきました。今や当たり前のことだと思っています。ただ、まだまだそれが一般的ではない部分も残っていると思っていますので、できる限り一般的にするにはどうしたら良いか常々考えていまして、今回はそれに力を入れていきたいと思いました。

## 記者

人口が減少しつつあるところだと思います。働き世代、かつ子育て世代をどんどん呼び込んでいきたいという狙いもあるのでしょうか。

## 市長

その狙いもありますが、生きていくということはそういうことだと思っています。次の世代に何を残すかがテーマです。足りないところはどんどん補っていききたい。大きな課題だと思っています。

## 記者

新港の新しいふ頭について、当初から随分紆余曲折がありました。これからいつくらいが完成の時期になるのでしょうか。当初10年という約束で、使用している方々に理解していただいたと思うのですが、その後埋め立てるための土砂がないということで、期間が伸びたように思います。当初の計画から予算や完成時期など変更になった点があれば教えてください。

## 上条副市長

これまで皆様に発表していた埋め立て計画からかなり規模を縮小しています。第1期、第2期、第3期と工事の期間を区切り、少しでも早く共用開始ができるような事業のスキームに変更しています。今度の議会で内容をお示ししたいと思っています。当初10年といていたものを、かなり前倒ししてできるような形を目指していききたいというところです。中身については、今後、議会でお示ししていききたいと思っています。

## 記者

社会減が緩やかになってきた一方、自然減はいかんともしがたいところがあり、人口減少は起きるものだと思います。高齢者が増えるとどうしても扶助費が増えます。また退職金の引き当ての関係もあると思うのですが、人件費が増えてきています。そうしたものが上がっていく中で、人口も減っていき、バランスについては再興プランにも載っていました。市長は投資の好循環とお話をされておりますが、いつ頃、蒔いた種を回収、刈り取るのか見通しをお伺いできればと思います。

## 市長

いつ頃と言われても難しいのですが、できる限りあと3年後には答えが出るように頑張っていきたいと思っています。おっしゃるように高齢者が増えて、社会保障費も増えて、退職金や物価高で財政運営が難しくはなっています。そのバランスをどうやって取っていくかを考えていかなければならない。それは私の当然の責務だと思っています。それを見据えながら、どのように経済と福祉の好循環を実現するか、これは本当に難しい舵取りだと思っていますが、やり遂げなければならないと思っています。自然減は特に難しい。基地の街はみんな同じ様子で、戦前、戦中通じて仕事を求め移り住んで来られた方々が、高齢になり、産業の空洞化が始まって、市外に出ていく。呉、佐世保、舞鶴は防衛産業がしっかりしていることもあり、そうでもないですが、みな共通してどうやってクリアしていくのかということが最大の課題だと思っています。佐世保も横須賀と同じように丘陵地がたくさんあって、住むところが少ないと同じような状況を抱えている中で、同じ悩みを抱えていますが、その中でどうやって新しい流れを作っていくのか考えていかなければいけない。ある意味ハンデ戦だと思っています。だからこそ、中小企業の活性化や観光都市として発展させていくなど明示しながら、目標にしながら、新しい流れを作っていく。これは佐世保にしても呉にしても同じだと思っています。財政運営はどこも厳しいことは同じだと思っています。そのバランスをどう取っていくか常々悩んでいます。少なくとも再興プランにお示ししたとおり、当選してから任期までは目いっぱいそこに向けて、何とか改善していくというのが変わらぬ私の役目だと思っています。

## 記者

2点目、まちづくり関係ですが予算の概要の27ページです。先ほど浦賀と大矢部の話をされていましたが、追浜のまちづくり関係も6,300万円の予算がついています。また市道の拡幅に2億円の予

算がついています。追浜のまちづくりは、浦賀とはまた違うまちづくりになると思いますが、そのあたり現段階でどのようにお考えでいらっしゃいますか。

#### 市長

バスタが中心になると思っています。国交省と協議を重ねてきて、様々な困難がありましたが、ようやく10年後を目途に追浜のバスタが完成します。これを受けて、その前から再開発は行っていたのですが、追浜は横須賀の玄関口です。当選した当初、玄関口の追浜と久里浜の両方を同じように発展させていきたいという想いがありました。ベ이스ターズも誘致し、様々な仕掛けづくりをやってきました。横浜につながる、できれば金沢区も含めた大きな構想、金沢区の人にも追浜に来てもらうという、あの商圈、経済圏も含めた構想を持っています。その発展にある程度は進んでいくのではないかと思います。

#### 記者

最後に、来年の2月に市政120年を迎えます。そこに向けての動きや市長の考えなど、どのように進めていこうと思っていますでしょうか。

#### 市長

120年というのは過程の段階ですから、特別にあまり考えてはいないのですが、これまで続けてきた再興プランも含めて、取り組んできた施策が、その時点でどのような状況になっているのか見極めて、120年を迎えたいと思っています。ある程度の結果は120年では出さないといけないと思っています。

#### 記者

追浜の再開発でバスターミナルができて、整備されるのは良いことだと思いますが、川の上にある駅前の商店街の立ち退きの交渉があると思います。自分たちが立ち退いたあとに行くところがあるのかということが一番心配されていると聞いています。そのところはいかがでしょうか。

#### 上条副市長

一時的に移転して商売を続けたいという方もいらっしゃいますし、これを契機に商売をやめようかという方もいらっしゃいます。どちらも将来的なことを明示しながら、ご提案しながら進めていく、そのような姿勢であります。どこの場所というのはその方のお考えにもよりますので、今は、答えはできません。

#### 記者

商売をやりたい方には、移転先はあるということでしょうか。それを一番心配されております。

#### 上条副市長

移転先は例えば、まとまった場所で、というイメージではないと思います。

#### 市長

具体的なことはこれから相談で、様々なことを工夫しながら、店舗のことは考えていかなければならないと思っています。

#### 記者

再興プランは市長当選の2018年から4年ごとに作っているということでしょうか。

#### 市長

はい。そうです。

#### 記者

「再興」というネーミングについてお聞かせください。ご自身の当選以降の再興という、角が立

ちそうとのことでした。市長がおっしゃった 2013 年にマイナス約 1500 人転出があった、あの頃の人口減が一番注目されたあたりからの再興というイメージでしょうか。

#### 市長

実は、率直に言うと、私が若いころの横須賀は 43 万人都市で、どこ行っても「横須賀」「横須賀」って言われた誇らしい時代がありました。その時代のイメージです。その時代の経済基盤がどれくらいで、どのくらいの企業があつて、どうだというわけではないのですが、私のイメージの中でかなり輝いていたあの横須賀の時代をもう一回作りたいというのが再興プランです。角が立つのですが、当時を直接ご存じな方が、今まで市長をやつてこられなかった。私はここで生まれ育つたので、それを肌で感じているので、そこをもう一度蘇らせたいという強い想いがあります。それまでの歴代の方たちも、しっかりとやっていたので、否定するつもりはありませんが、その時代をご存じではないと思います。私のイメージはその時代のことです。

#### 記者

今回、新たなプランの柱に防災を盛り込みました。能登半島地震が起きてから、3 年連続で予算でも手厚くされたと思います。今回は空からの物資搬入とのこと。去年の末くらいに海での物資搬入を国交省が音頭をとって訓練されました。空から、海からと、物流が寸断されている間、どのように凌ぐかということであると思います。国、4 市 1 町、NTT 東日本も絡んでいますが、国、県、民間と総合的に行っている意義を説明してもらえますでしょうか。

#### 市長

やはりどうしても、地域だけでうまく助け合うには限界があると思っています。何日かは生き延びないといけません。そのほか、どのような状況になるか分からない。道路がダメになるかもしれない、海もダメになる可能性もある。あらゆる可能性、あらゆる災害を想定した場合に、国・県・市含めて、空、海を考えないといけないという結論になってきました。あらゆる状況を考えたときに今のプランになったとご理解いただければと思います。

#### 記者

かねて希望していた自前のヘリコプターは、コスト的に難しいのでしょうか。

#### 市長

高いのです。30 億円かかります。2 機で 60 億円です。お恥ずかしい話ですが、さすがに断念しました。

#### 記者

県や消防などの機関に応援をいただくということですか。

#### 市長

そういうことです。そのためのヘリポートです。

#### 記者

県だけで最大 10 機あるとお伺いしています。三浦半島だけでなく様々なところでヘリが必要になると思うのですが早いもの勝ちなのか、どのような仕組みになっているのでしょうか。

#### 横須賀市 市長室長

まず、来年度中に環境整備させていただきます。それが整った段階で、自衛隊、警察、消防等がヘリを持っております。また、大きな自治体も持っています。そういった方々と調整して運用につきまして、何か起きたときにはどうやって順番に来ていただけるのか、どういった手続きが必要なのか、といったところを環境整備とあわせて、来年度中に行いたいと思います。

#### 記者

最後にAIを活用した教育環境の整備について伺います。かねてから横須賀市出身のAIのプロフェッショナルの方を招いていたかと思えます。その方のいろいろな助言を受けて、市長も前のめりで、県内でかなり先駆的な状況になっているということでしょうか。

## 市長

県内だけでなく、日本でも一番先駆的だと思います。かなり進んでいます。AI戦略アドバイザーの深津さんのおかげで、様々なテーマの考え方が変わってきて、能力も底上げできました。そのおかげだと思っています。いろいろあるので、挙げるときりがないのですが、かなり先進的なことを行っています。これからのAIというのはどうなるのか、ChatGPTはどうなっていくのか、行く末がどうなるのかということも含めて議論しています。それともう一つ、自慢ではありませんが、でき上がったものを全国に提供しています。職員がGoogleの社員からどうしてそのようなことをするのかと聞かれました。市長の政策で持てるものは全部出して底上げしたいから、全国でお出しすると話をしましたら、そんなことがあり得るのかと言われました。そのくらい思いが強いです。国の大きなレベルではとてもできないことを、まずは自治体が行うことによって、先駆的に走って、広げていく、底上げしていくことが大切だと思っています。それを念頭に置きながら職員たちも頑張ってくれています。様々なトライアルを行っています。AIには失敗はないと思っています。運用するときには様々なこと、施策はありますが、様々な考えで進んでいくことに間違いはないと思っています。それを含めて今、どんどん進めています。

## ■案件外質疑応答

### 記者

この前の衆議院選について、中々お答えしづらいかと思いますが、自民党が各地で議席を取りまして、日本の政治史にも残るような結果だったと思いますが、一自治体の上地市長から見て今回の状況はどのように感じましたでしょうか。

### 市長

国民が分かりやすさ、明快さを求めたということと、見ていて高市首相には覚悟が感じられます。マスクミの皆さんが言われているような、消費税の問題で争点がぼやけてしまった、準備が足りなかったということよりも、明快さ、覚悟、経済安全保障という特化した流れの中で力強さを感じました。時代の流れだと感じています。しかし、まさかこんなに勝つとは思っていませんでした。それを国民が選択したのではないかと思います。理屈ではなく、感性や思いというものを国民が感じたのではないかと思います。私も個人的にそう感じましたし、発言や演説を聞いていると思いや覚悟が伝わってきました。これは勝つのではないかと思います。内外共に課題が山積する中で、合意型の民主主義よりも、結論を出していく、結果をだしていかなければいけないということで、明確なメッセージを発していました。それを国民が求めた結果だと思っています。自治体の首長としては、きちっと地方のことも考えてもらいながら、一緒に進んでもらいたいと思っています。経済がしっかりしなければ歳入も増えません。それから安全保障です。災害も含めての安全保障、ましてや横須賀は基地の街です。それはきっちりやっていただきたい。私が言っている経済先行、経済を福祉に回していくということと、個人的には一致していると思っています。しっかりと見据えながらやっていただきたいと思っています。

### 記者

もう一点伺います。いま安全保障という言葉があったと思います。高市総理も抜本的に防衛政策を見直していくとのことでした。その中で、最近話題になっている非核三原則について、政府としては堅持していく方針ですが、今後何らかのきっかけで見直す可能性もあるという話があります。市長としては非核三原則について政府が見直し、またはその議論が始まった段階でどのような考えをお持ちでしょうか。

### 市長

一自治体の首長として、横須賀市長としての立場からすると、お答えは今のところできないとご理解いただければと思います。

**記者**

日産問題で、2月10日の火曜日に、県庁で2回目の全体関係者会議があり、横須賀市からも出席して、報告を受けているかと思います。どのような説明で、本市に関わる点はどのようなことがあったのかお伺いします。

**横須賀市 経済部長**

会議には私も出席しました。関係機関、県、横浜、横須賀、厚労省、経産省の職員が出席し、日産自動車から主に取引事業者様への説明の経過報告、それから従業員の方への説明の経過報告をいただきました。その情報を共有いただきまして、今後も連携しながら取り組んでいくことを確認した会議でした。

**記者**

取引情報と従業員の状況をかいつまんで説明してください。

**市長**

横須賀についてでしょうか。全体でしょうか。

**記者**

全体と横須賀をできたらお願いいたします。

**横須賀市 経済部長**

全体としては取引の状況、影響を受ける会社はいくつかあるという報告がありました。横須賀に関しては数としては少ない状況でございますが、これまでもご説明をしてきたとおり、日産との取引の比率がすごく厚いという会社はございませんでした。

**市長**

具体的な話はあまりできないのでしょうか。

**横須賀市 経済部長**

具体的な会社名まではその場ではありませんでした。内々には共有されておりますが、公表までは許可を得ておりません。

**記者**

何割などざっくりした数字は出せないのでしょうか。

**市長**

横須賀が関連している一次産業における日産のシェアは25%でしょうか。

**横須賀市 経済部長**

横須賀市で把握している企業についての、日産との取引の割合は、市長からお話があった25%前後だと思います。

**記者**

市内の企業、取引先の25%が影響を受けているということでしょうか。

**市長**

違います。シェアです。日産との一次取引は2社です。その2社は、会社の売上げの20%~25%ほどが日産の売上げで占めている。一次下請けでいるということです。70%から80%は日産以外

があるということです。

**記者**

1社の全体の売上げが占める割合の20%が日産とのことで、それがどのような影響を与えているかという話はないのでしょうか。

**市長**

1社の売上げのうち、日産に関係するのは20%しかないということです。80%は今も仕事をしています。その20%がその会社におけるどのような影響を及ぼすかを知りたいということでしょうか。

**記者**

そうです。日産との取引の割合がさらに減ったなどありますか。

**横須賀市 経済部長**

現状、取引をどれくらいされているかは申しあげたとおりです。追浜工場の生産はまだ通常とおり続いています。それから車両生産の部門がなくなると言われておりますが、一部の機能は残すといった発表もございました。結果、それらの取引が、どの程度残るのかどうかは、現時点でははっきり分かりませんので、それ以上の細かいところは分かりません。

**市長**

二次下請けも数社あります。それも同じくらいのレベルです。どこまで日産が残るか分からないので、まだ未確定だということです。

**記者**

ヘリコプター遊覧が三たび中止になりました。

※中止になったのは2回(第1回：10月25日、26日 第2回：2月7日・8日)

**市長**

そうなのですか。

**記者**

雪で中止になりました。

**市長**

知らなかった。それは由々しき事態です。

**記者**

2月7日、8日の選挙の投開票日を含む土日でしたが、日曜日が中止になりました。

※正しくは両日中止

**上条副市長**

これから市長には報告が行くと思います。

**記者**

なぜそのように日にちを全て外してしまうのかなと不思議です。

**市長**

本当ですね。なぜでしょうか。

**上条副市長**

10分の1くらいの確率で外しています。一番天候が安定して、空気が澄んでいて富士山が良く見え

る時期と統計上はでているのですが、個人的にも不思議です。

**市長**

やはり風の時代なのでわかりません。

**記者**

現在、実証の段階ですがやってみないとわからないのでしょうか。

**上条副市長**

参入していただいているヘリコプターの会社は、是非やりたかったとのことでした。まだ、何回かチャレンジしたいということなので、もう一回まずは設定して、ご予約いただければと思います。

**市長**

誠に残念でした。

以上